

大学教育再生加速プログラム(AP) 中間評価結果

整理番号	48	大学等名	新潟大学
テーマ	テーマⅣ 長期学外学修プログラム（ギャップイヤー）		

【総括評価】

S：計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。

【コメント】

<優れている点>

- ・平成 29 年度を目途とした「2 学期 4 ターム制」への移行も予定通り実施されたほか、学部の新設・改組に伴って、創生学部、理学部、工学部、農学部で長期学外学修や能動的学修に関する授業科目が必修化されるなど、全学規模で長期学外学修プログラムを実施する体制は順調に推移していることは評価できる。
- ・計画にあった教育・学生支援機構の再編によって開設した「学外学修支援部門」機能を更に強化するために、計画にはなかった「連携教育支援センター」の新設、更にはその事務的サポート機能として学務部の改組による「連携教育支援課」を新設したことは、特に優れたこととして評価できる。また、平成 30 年度実施予定であった外部評価を試行段階の平成 28 年度から実施するなど、PDCA サイクル機能強化も計画以上に進められていることも評価できる。
- ・平成 27 年度及び 28 年度の 2 年間の長期学外学修プログラムの試行から得た課題や成果を、当初計画にはなかったハンドブックとしてまとめたことは評価できる。また、補助期間終了後の事業継続を見据え、学長裁量経費の活用によって専任教員 2 名を配置するなど、体制面でも資金面でも継続の見通しが立っていることも評価できる。